

名城大学 環境ガイド 2017

MEIJO
UNIVERSITY
ENVIRONMENTAL
GUIDE
2017



環境教育の拠点づくりを目指して

本学は、2016年4月に開学90周年を迎え、ナゴヤドーム前キャンパスを開設し、9番目の学部として、新たに外国語学部を設置しました。2017年4月には同キャンパスに都市情報学部と人間学部が移転し、3つの学部が融合した創造型のキャンパスを構築します。

この新たなナゴヤドーム前キャンパスでは、①省エネを実現するため、高効率熱源設備、地中熱利用設備、氷蓄熱設備を導入、②室内の熱を外部へ逃がさない交換機の導入、③電気を変圧する際のロスが少ない変圧器の導入、④全館にLED照明を導入することによる省エネ効果の拡大、⑤雨水を利用することによる水資源の有効利用、⑥設備等の電力消費を監視するシステムの導入など、環境に配慮した様々な計画を実現しました。

これらの取り組みをはじめ、本学では、10年後の開学100周年を見据え、大学の使命であります教育、研究、社会貢献の機能を最大限に発揮できるような環境の整備充実を図り、大学全体で国際的に活躍できる人材の育成に力を注いでいます。

2002年6月に環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、以来12年間に渡り、環境マネジメントシステムの整備充実に向けて参りました。この間、学生・教職員に対する様々な環境教育を実践し、環境配慮のマインドを醸成して参りました。これらの成果を活かし、2014年6月には、名城大学独自の環境マネジメントシステムである「Meijo-EMS」を構築し、これまで日々、自主的な環境保全・環境配慮への取り組みを推進しています。

2014年12月に赤崎勇終身教授が青色発光ダイオード(青色LED)の発明でノーベル物理学賞を受賞されました。その研究成果は、人類の生活に大きな利便性をもたらすとともに、省エネルギー効果により地

球環境保全にも大きく貢献しています。本学は、赤崎勇終身教授の偉業を誇りに思い、教育研究の諸活動において、より一層、良好な環境づくりに努め、その成果を社会に還元していく所存です。

現在、新しい国際ルールでの温室効果ガスの削減、再生可能エネルギーの実用化、企業における持続可能な体制の構築など、地球環境への関心が高まる中、本学においても、様々な機会を通じて環境問題について学び、グローバルな視点で課題解決ができる人材を育成していきたいと考えています。

本報告書では、2015年度の本学における環境の取り組みとその活動状況を取りまとめました。多くの皆様にお読みいただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。



名城大学 学長 吉久 光一

皆さんへご協力依頼

名城大学は、環境にやさしいキャンパスを目指しています。皆さんも学内の廃棄物の分別や節電にご協力をお願いします。

天白・八事・ドーム前キャンパスでの廃棄物の分別方法

可燃ごみ（燃やせる物）

生ごみ、ティッシュ・ペーパー、紙製のトレイ、写真、ゴム製品（輪ゴムなど）、プラスチック製容器、プラスチックフィルム、カップ麺などの容器、ボールペン、鉛筆、ストロー、菓子などの包装紙、箸、プラスチック製スプーン、再資源化できない紙くず、汚れたプラスチック製品等



- 留意事項 -

- 濡れたもの、水分を多く含んだものは、できるだけ脱水して、学内に設置してある回収ボックスへ投入してください。
- 異物が付着していない紙くずは、紙資源として再資源化してください。

不燃ごみ（燃やせない物）

食品や化粧品が入っていたビン類、ガラス、陶磁器、金属類、小型家電等



- 留意事項 -

- 鋭利な物（割れたガラス類や刃物、先の尖ったもの）は、新聞紙などで嚴重に包み、中身が危険なものであることを表示し、安全を確保してください。

ペットボトル

飲料水が入っていたペットボトル



- 留意事項 -

- キャップ、ふたを取り外し、中を空にしてください。

ビン、缶

空き瓶、空き缶 … 飲料用、飲食用

薬品が入っていた容器は、対象外



- 留意事項 -

- キャップ、ふたを取り外し、中を空にしてください。

紙資源

コピー用紙、雑誌、書籍、ノート、カタログ、パンフレット、新聞紙、官製はがき、封筒（窓付き封筒は下記を確認）、チラシ、紙製のフラットファイル（留め具は除くこと）、紙製菓子箱、コピー用紙を包んでいる茶色い紙、牛乳パック（中を洗浄し、切り開いてスーパーなどへ）



- 留意事項 -

ドーム前キャンパスについて

- キャンパスの構造上、古紙回収や機密文書の一齐回収は行いません。
- 廃棄する場合は、ドーム前キャンパスのルールに従ってください。

窓付き封筒について：窓がプラスチックフィルムの場合は、窓の部分を取り除いてください。
窓の部分が半透明の紙の場合は、そのまま紙資源として処理してください。

（注）詳細については廃棄物処理ハンドブックをご確認ください。



不用品を廃棄する場合は、複数の法律に関連する場合があります。不用品がありましたら、各学部の事務室経由で総務部へ確認してください。

紙のリサイクルについて

リサイクル可能な紙資源は、共通講義棟のホールや特定箇所に設置された紙資源回収ボックスに投入してください。

リサイクル可能な紙

コピー用紙、雑誌、ノート、カタログ、パンフレット、新聞紙、厚紙、はがき（樹脂コーティングしてあるものは対象外）、封筒（窓付きについては前ページを確認）、チラシ、紙製菓子箱（平らに広げる）、コピー用紙を包んでいる茶色の紙、

リサイクル不可能な紙

写真、油紙、トレーシングペーパー、紙コップ、付箋、粘着テープが付いたもの、ティッシュ・ペーパー、カーボン紙（含むノンカーボン紙）、圧着ハガキ、ラミネート加工した紙、牛乳パック（前ページを確認。本学では回収対象外）

リサイクル不可能な紙は、廃棄物処理ハンドブックに掲載している廃棄物分別区分一覧表に従って処分してください。

環境方針について

節電	<ul style="list-style-type: none"> 冷暖房の適正な温度設定 使用しない時の、教室・研究室・トイレの消灯 使用しない時の、パソコンの電源 OFF
節水	<ul style="list-style-type: none"> 実験時の必要以上の水量に注意 手洗い時の必要以上の水量に注意
省資源	<ul style="list-style-type: none"> 裏紙の有効活用 両面コピーの推進 不要コピーの撲滅 予備印刷の削減
削減	<ul style="list-style-type: none"> 3R の周知徹底 分別廃棄の徹底 紙資源のリサイクル推進 持ち込みごみの持ち帰り徹底

3Rとは、Reduce（発生抑制）、Reuse（再利用）、Recycle（再生利用）の3つのRの総称です。

産業廃棄物について

産業廃棄物とは、法人の業を営む上で発生した廃棄物で、法的手続きが必要なものです。産業廃棄物の中には、特別な管理が必要なものがあります。

- 産業廃棄物は、粗大物に該当する計測機器、実験器具や法定の基準に満たない廃油、廃液、廃薬品などがあります。
- 特別な産業廃棄物は、感染性廃棄物、一定の基準を超える廃油、廃液、廃薬品などがあります。

◆産業廃棄物の種類

廃プラスチック類、ガラスくず及び陶磁器くず、粗大物、廃油・廃液・廃薬品、廃乾電池、感染性廃棄物

◆有価物

パソコン及び周辺機器ならびに測定機器なども産業廃棄物として処理していましたが、現在は有価物として処理しています。

家電リサイクルについて

産業廃棄物や一般の廃棄物とは別の法律で管理されています。

◆対象となる家電品 ※業務用機器は対象外です。

- テレビ
- 冷蔵庫、冷凍庫
- 洗濯機、衣類乾燥機
- エアコン

自動販売機の紙コップ

学内に設置してある自動販売機の一部には、デポジット機（紙コップ回収専用機）が設置してありますので、その中に投入してください。

駐輪場について

本学が提供している駐輪場は、通学用自転車を置く場所です。不要な自転車やごみを放置しないでください。

※天白・八事キャンパスでは原動機付き自転車も自転車に含みます。

環境の取り組み

名城大学環境方針

環境理念

名城大学及び名城大学附属高等学校は、環境基本法を始めとする環境法令を順守し、社会から要請される「持続的に発展可能な社会の形成」に応えられる人材の育成と研究に努めます。

環境方針

1. 地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
2. 環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
3. 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取り組みます。
4. 教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を遵守し、汚染の予防に努めます。
5. 環境方針を達成するため、名城大学が独自に策定した環境マネジメントシステム (Meijo-EMS) を構築・運用します。
6. 内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムを含む環境保全活動の継続的な改善を図ります。
7. 環境方針はインターネットホームページで公開します。

平成 29 年 4 月 1 日 名城大学 学長 吉久 光一

2015年度の環境活動

クリーンアップ大作戦

天白キャンパス編

ボランティア協議会の環境局はクリーンアップ大作戦を、年18回(前期9回、後期9回)行っています。活動は、地域貢献の一環として、大学の周りの駐輪場、駐車場ならびに道路を清掃しています。ペットボトルや空き缶等は、減少傾向にあります。タバコの吸い殻は、駐輪場、駐車場及び人気の少ない場所で散見されます。

クリーンアップ大作戦へ参加し、ポイントを貯めると大学内の食堂で飲食ができるようになっています。今後の目標は、学生にクリーンアップ大作戦を理解してもらい、参加者を増やすことです。

可児キャンパス編

都市情報学部では環境美化のため、清掃活動を6月、11月の年2回行っています。毎回、好天に恵まれ、学生、地元の虹ヶ丘自治会の関係者、教職員合わせて6月は約120人、11月は約70人が参加しました。昼休みを利用した1時間ほどで、可児キャンパスと名鉄西可児駅を結ぶ通学コース、学生駐車場を含むコースなどに分かれて活動を行い、びん・缶・ペットボトルなど、様々なごみを回収しました。

参加した学生は「ごみは思ったより多かった。今回きれいになったので、この状態が維持できるといい」と話していました。





「エコ/パワークラブ」 レースでワン・ツー・フィニッシュ

栃木県茂木町で省エネカーレース「本田宗一郎杯Hondaエコマイレッジチャレンジ2015 第35回全国大会」が9月19～20日に開催されました。大会は、50ccのエンジンを積んだ自作の車に1人が乗って1リットルのガソリンで走れる距離を競います。「名城大学 SPICA」チームは1,914.249km/Lを走行し優勝、「名城大学 2004」チームは1,670.705km/Lを走行し、準優勝しました。

エコパワークラブの部長 小林寛平(理工学部交通機械工学科3年)さんは「今年も全国大会で良い結果を残せてうれしいです。今回は車体やエンジンの軽量化、空気抵抗が少ないフォルムに重点を置き製作しました。結果には満足ですが、記録には満足していないので次回の大会ではもっと良い記録を残したいです」と話しました。部員たちは10月5日、吉久光一学長らに結果を報告し、吉久学長は「優勝と準優勝という結果を聞き、驚きました。また名城大学の名が広まり嬉しく感じます。次の大会では新記録を目指し頑張ってください」と話しました。



打ち水大作戦 in 名城

天白キャンパス共通講義棟前で7月15日朝、学生ワーキンググループによる「打ち水大作戦 in名城」が行われました。2011年から省エネ・省資源活動の一環として毎年行われており、5回目となる今回は学生、教職員、100人以上が参加しました。司会を務めたボランティア協議会の近田健人さんの掛け声で、手桶に用意された雨水を含む雑用水で、打ち水を一齐にスタートしました。開始時に29.7℃あった気温は20分間の打ち水を終わると28.6℃まで下がりました。目標のマイナス2℃には届きませんでした。参加した学生はお互いに水をかけあったり、夏の始まりを感じるような20分間でした。

名古屋市はこの日、最高気温34.3℃を記録し、猛暑日並みの暑さとなりました。



青色LEDとキャンドルナイト

学生ワーキンググループは、名城大学祭初日の10月29日、天白キャンパスのサンクンガーデンで、恒例となった「キャンドルナイト」を開催しました。風も強く冬の始まりを感じさせる寒い夜でしたが、大学祭に続いて多くの人に観覧していただきました。

キャンドルナイトは2009年度から実施し、大学祭とのコラボ企画としては4回目となります。当日は午後6時30分に点灯を開始しました。今年の大学祭のテーマである「BIRTH」と「ECO」の文字を描き、幻想的な空間でスローライフと省エネを訴えました。キャンドルと青色LEDライトが照らす中、アカペラサークルの「はもりね」が、「シークレットベース」や「赤いスウィートピー」など6曲を披露し、集まった観客を魅了しました。



環境の取り組み

オープンファームで実りの秋

農学部附属農場で11月7日、第10回オープンファームが開催されました。農場で生産された野菜や米、卵、果物、花などの農産物販売、里芋やサツマイモ掘り、稲刈りや鉢植えなどの親子体験イベント、家畜や農業機械の展示、トラクターでの農場遊覧、講演会などが行われ、近隣から訪れた約600人の来場者でにぎわいました。

農産物販売では、朝早くから多くの来場者が列を作ってお目当ての品物を次々に買い求め、親子体験イベントの里芋掘りでは、収穫の喜びを味わいました。附属農場フィールドサイエンス研究室に所属する学生も運営に加わり、子どもからお年寄りまでたくさんの方の笑顔があふれる農場体験となりました。



「エコ・クッキング教室」へ参加

東邦ガス主催の「エコ・クッキング」教室が11月19日、千種区のクッキングサロン今池で行われ、学生28人が参加しました。「エコ・クッキング」とは、環境のことを考えて「買い物」、「料理」、「片付け」を行うことです。

実際に調理を行い、学生たちは環境に配慮した調理方法、食材や水の上手な使い方、後片付けの方法などを学びました。参加した佐藤和也さん(経済学部産業社会学科3年)は「水洗いの前に新聞紙でフライパンや皿などを拭くことで汚れの80%を取ることができ、節水になるため、自宅でも活用しようと思いました」と感想を述べていました。

※「エコ・クッキング」は東京ガス株式会社の登録商標です。



編集後記

本学における環境配慮の活動は、ISO14001の認証を返上後、独自の環境マネジメントシステムとして構築した「Meijo-EMS」に基づき行われています。全学をあげて日常的に環境配慮の活動を行うことにより、学生や教職員の環境への配慮や関心が高まることを期待しています。

本学の「Meijo-EMS」は、環境マネジメントの基本に立ち返り「紙」、「ごみ」、「電気」の削減という馴染みのある取り組みやすい事柄を目標とし、達成のための手段として環境配慮の活動を進めていきます。

本報告書は、関係各位のご協力が無事発行することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

総務部 総務・環境安全グループスタッフ 一同

お問い合わせ先

名城大学

総務部 総務・環境安全グループ
〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地
TEL : 052-838-2007
FAX : 052-833-9494
URL : <http://www.meijo-u.ac.jp/>
E-Mail : ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp

※詳細は下記をご覧ください。

名城大学環境ホームページ
<http://www.meijo-u.ac.jp/about/action/environment/>
名城大学環境安全衛生ホームページ (MESAHI)
<http://mesah.meijo-u.ac.jp>
(学内 PC からのアクセスのみ)